

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園は0～2歳児の乳児を対象とした保育園ですが、0歳児から英語を取り入れています。日本語も含め、子どもたちの【ことば】の獲得への探究活動を実践します。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、英語で子どもたちと接してきました。レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、園児に寄り添ってきました。このように当園では、英語が園児にとって身近な興味となっていることから英語のみならず、普段話している日本語も含めて「ことば」をテーマとして設定しました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】2歳児クラスでは、保育者がことばについて問いかけました。「いま、お話ししていることば、なんていうのかな?」「このことば、みーんなが話しているのかな?」子どもたちは、「ネイサン先生はね、英語でお話するんだよ!日本語はできないんだって!」と話し、日本語と英語があることに気づいているようでした。

【流れ】英語講師が来る日には、英語の絵本を読んでもらい、保育者も子どもたちと一緒に参加します。自由遊びの時間には、保育者が日本語の絵本を読み聞かせ、その際に英語講師も一緒に参加します。こうして、子どもも大人も英語と日本語のことばを一緒に楽しめます。まだ言葉を話すのが難しい乳児クラスでも、日本語や英語の音を聞くことで、ことばに触れる機会を持ちます。

【探究活動の実践と記録】英語の活動では保育者が記録を行い、日本語の活動では保育者に加えて英語講師も記録を行いました。特に、子どもが英語を話したときの言葉や音の違いを英語講師が聞き分ける役割を担当しました。

*読み聞かせ：0,1,2歳児クラス

*歌：0,1,2歳児クラス

*手遊び歌：0,1,2歳児クラス

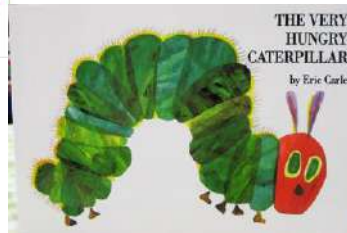
【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員でブリーフィングを行い、探究活動の共有をしながら、次の月の問いを考えます。そのうえで、環境の準備や探究活動のスケジュールについて話し合います。また、保育者同士は午睡中や、職員会議で振り返りや情報共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

- * 同じ作者の英語絵本と日本語絵本。"Hungry Caterpillar" 「はらぺこあおむし」
- * 同じ内容、メロディの英語歌と日本語歌。"Twinkle twinkle little star" 「きらきらぼし」
- * 同じ内容の英語手遊び歌と日本語手遊び歌。"Rock scissor paper" 「グーチョキパーでなにつくろう」



4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「はらぺこあおむし」日本語絵本の読み聞かせ

* 0 - 2 歳児の各クラス：保育者が日本語の絵本「はらぺこあおむし」を読み聞かせました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 「はらぺこあおむし」のCDを流しながら保育者が一緒に歌ったことで興味を示し、じっと見つめていたり笑顔になったりして最後まで見聞きすることができていた。
- ・ 普段は歌いながら読んでいるが、歌わずに読んだ。
- ・ 歌う時よりも指差しが多い。
- ・ 「もくようび」「いちご」「ちょうちょ」と気になった絵や言葉を言う。
- ・ 終わった後にカレンダーを指差しし「すいようび、あっちのやつといっしょ！」と毎朝曜日確認を行っている事を思い出し話す。
- ・ 「金曜日は何食べてた？」の問いに「オレンジ」と答えた



4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①"The very hungry caterpillar（はらぺこあおむし）"英語絵本の読み聞かせ

* クラス：0 - 2 歳児クラス：英語講師が"The very hungry caterpillar（はらぺこあおむし）"英語絵本の読み聞かせを行いました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「はらぺこあおむし」の絵本に興味はあるものの、読み聞かせがレッスンの最後の方だったため飽きてしまい聞くことが難しかった。

・ 保育者の問いかけに対し、特に果物へ興味を示していた。

・ 最後にちょうちょが出てきたことに喜び「ちょうちょ」と発言していた。

・ [sunny]と指差しして言う。

・ 講師の真似をして一緒に食べる真似をする。（あむあむと言う）

・ 講師の真似をして自分の指を見ながら数を数える

・ 「全部食べちゃった」「Big」と言う。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】もともと馴染みのある絵本や手遊びだったため、特に抵抗なく楽しんでいた。英語絵本の読み聞かせは0歳児クラスが飽きてしまっていたため、アクセントや強弱をつけながら進めてもらうよう講師にお願いすべきだった。1歳児クラス、2歳児クラスは英語の読み聞かせでも概ね楽しみながら参加出来ていた。

【次回への問い】絵本ではなく、素材を変えて例えば手遊び歌だったら子どもたちは英語と日本語でどのように反応するのだろうか？特に0歳児は手遊びであっても英語だと飽きてしまうのだろうか？

4 -②. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>②「ぐーちょきぱーでなにつくろう」日本語で手遊び歌を歌う

*クラス：0－2歳児クラス：保育者が「ぐーちょきぱーでなにつくろう」の日本語手遊び歌を歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・つぶやきは特になかったが上手に真似をして楽しんでいた。「ぐーちょきぱーでなにつくろう」の歌には馴染みがある為、英語でも子どもも楽しそうに聞き入る様子が見られた。ただ、真似をすることは難しかった。



4 -②. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>②"Rock scissors paper finger play(ぐーちょきぱーでなにつくろう)"英語で手遊び歌を歌う

*クラス：0－2歳児クラス：英語講師が"Rock scissors paper finger play(ぐーちょきぱーでなにつくろう)"英語で手遊び歌を歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「ぐーちょきぱーでなにつくろう」の歌には馴染みがある為、英語でも子どもも楽しそうに聞き入る様子が見られた。ただ、発音やことばを真似をすることは難しかった。



5 -②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】手遊びが好きな子が多く日本語では保育者をよく見ながら真似ていた。英語に関しては初めての子がほとんどだったので歌は所々真似て発音しようとする姿は見られた。0歳クラスでは、日本語でも英語でも座りながら保育者や英語講師を良く見て楽しんでいた。視覚からの情報の方が0歳児には分かりやすく、そこに英語の歌や動きがついてくるのは少し先だと感じた。

【次回への問い】4月の英語の時間に習った"Twinkle twinkle little star"を日本語で歌うことで子どもたちはどのように反応するのだろうか？また英語で歌ったことを覚えていて馴染みのある反応をするのだろうか

4 -③. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>③「きらきらぼし」日本語で歌を歌う

* クラス：0－2歳児クラス：保育者が日本語で「きらきらぼし」を歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・「きらきらぼし」は聞きなれた曲だった為、一緒に手遊びをしながら楽しむ姿が見られた。



4 -③. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>③"Twinkle twinkle little star(きらきらぼし)"英語で歌を歌う

* クラス：0－2歳児クラス：英語講師が"Twinkle twinkle little star(きらきらぼし)"を英語で歌う

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・以前に英語活動の中で歌っていたが、途中入園も多く、英語の歌は初めてという表情を見せる子どもがほとんどだった。しかし日本語では馴染みがあるということで、英語講師の様子をじっと見つめていたり、歌に合わせて笑顔で身体を動かしたりする姿も見られた。

- ・保育者がピアノできらきら星を弾いた。
- ・保育者のピアノに合わせて歌い始める。
- ・手をキラキラさせながら身振りをつけ歌っていた。
- ・英語は違う身振りでも真似しながら楽しんでいた。
- ・歌詞も部分的に真似しながら歌う姿が見られた。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】この歌はリズムが取りやすく、「キラキラ」、「Twinkle twinkle」のフレーズも発音しやすかったのか多くの子が歌うことが出来ていた。また英語バージョンも講師の真似をしながら歌い、身振り手振りで表現しようとしている姿が見られた。このことから特に英語日本語に関わらず、0歳児には視覚的なアプローチ、英語でも単語を教える際に必ずジェスチャーや絵カードも示し、視覚的にも訴えることは効果的と言えるかもしれない。また「きらきらぼし」のようなリズムの取りやすい歌だと、日本語英語に関わらずフレーズが発音しやすいという気づきを得た。

【次回への問い】特に0-2歳児は視覚的なアプローチがことばの獲得には重要だと気づいたかが、果たしてそれだけだろうか？別の外国人英語講師が来園して、別の英語を話すことで耳から入る英語が違ってくる。その時子どもたちはどのような反応をするのだろうか？